

フィールドワークの記録から

—コミュニケーション科学付属 DVD-ROM コンテンツ解説—

松本光太郎・木村正人

1. 概要と免責事項

この DVD-ROM には、パソコン及び家庭用の DVD プレーヤーで再生可能なビデオが収録されています。ビデオの内容は、タイトル名が「フィールドワークの記録から (2)」, その下に「イスラーム地域としての雲南とタイ」(木村正人・松本光太郎作成) 及び「観光用テモクーの再生 (2006 年のテモクー)」(松本光太郎作成) の二つのメニューに分かれています。「イスラーム地域としての雲南とタイ」の下はさらに「アッタカワー・モスクの金曜礼拝」「三つのアッタカワー学校——雲南とチェンマイ——」(後半はスライドショー)「馬雲従氏の語る小児錦」「チェンマイの犠牲祭 (2004 年 2 月 1 日)」「雲南ムスリムの歌う日本と中国の歌」の五つのコンテンツに、「観光用テモクーの再生 (2006 年のテモクー)」の下はさらに 10 余りのチャプターに分かれています。

この DVD-ROM については、Mac OS X (10.4.8) 環境及び Windows XP 環境、家庭用の DVD プレーヤーで、基本的な動作確認を行っております。また、Norton Antivirus により、ウイルス検査も完了しております。しかしながら、この DVD-ROM の使用により生ずる一切の問題について、いかなる責任も負いかねますので、同意の上、閲覧下さるよう、お願いいたします。パソコンで御覧になる場合には、お持ちのパソコンが DVD-ROM 再生に対応しているかどうか御確認の上、御使用下さい。また、音楽用 CD プレーヤーでは、絶対に使用しないで下さい。

リージョンコードの設定は、すべて再生可能となっております。ビデオ規格は NTSC となっておりますが、PAL 規格の家庭用 DVD プレーヤーでも NTSC に対応している機種が発売されています。

2. 視聴方法

(1) パソコンでビデオを視聴される場合

Mac OS X, Windows XP のいずれの場合も、DVD 再生用のソフトウェアを使用して視聴します。

フィールドワークの記録から

Mac OS X の場合、DVD-ROM を DVD-ROM 使用可能なドライブに挿入すると、OS に付属している「DVD プレーヤ」が自動的に起動します。後は、画面上のリモコンで操作して下さい。「DVD プレーヤ」が自動的に起動しない場合には、「アプリケーション」から選択し、起動して下さい。

Windows XP 環境では、やはりパソコンに付属している DVD 再生用ソフト等を使用して視聴します。DVD-ROM を DVD-ROM 再生可能なドライブに挿入すると、再生ソフトの選択を求めるウインドウが自動的に表示されますので、使用するソフトを選択して下さい。再生ソフトが自動的に起動する場合があります。あとは、表示されたリモコンで操作して下さい。なお、DVD-ROM を何回か出し入れしていると、再生ソフトの選択メニューが自動的に表示されなくなる場合がありますが、この場合には「マイコンピュータ」から DVD-ROM を選択し、ダブルクリックすれば、再生ソフトが起動します。

(2) リモコンの操作

ビデオを視聴する場合のリモコン操作に関して、パソコンを使用する場合も家庭用の DVD プレーヤを使用する場合でも、「タイトル (トップメニュー、メインメニュー)」「メニュー (サブメニュー)」の階層を選択することが可能です。コンテンツを選択する場合には、家庭用 DVD プレーヤの場合、リモコンの選択機能を利用して、「選択」状態、つまり選択したいコンテンツをハイライトにしてから、「決定」を押して下さい。パソコン上では、リモコンの選択機能を使用することもできますが、通常のマウスの操作で、コンテンツの名称の上にマウスを乗せるだけで選択状態になり、クリックすればサブメニューに行くか、またはコンテンツを再生することができます。

各コンテンツには、適宜チャプターが設定されていますので、リモコンのスキップ機能を利用して、先のチャプターに移ったり、前のチャプターに戻ったりすることができます。また、「戻る」(リターン)機能が設定されていないので、サブメニューに戻る際には「メニュー」、メインメニューに戻る際には「タイトル」のボタンを押して下さい。家庭用 DVD プレーヤの場合、「メニュー」ボタンを押し続けると、もとのコンテンツに戻ったりする場合がありますので、リモコンを正しく操作して下さい。また、家庭用 DVD プレーヤやパソコンの機種や性能により、リモコンの反応速度に若干のタイミングのずれが生じる場合がありますが、反応するまでお待ち下さい。

3. ビデオの内容について

(1) 「イスラーム地域としての雲南とタイ」

内容は以下の五つの部分から構成されています。

「アッタカワー・モスクの金曜礼拝」

「三つのアッタカワー学校——雲南とチェンマイ——」（後半はスライドショー）

「馬雲従氏の語る小児錦」

「チェンマイの犠牲祭（2004年2月1日）」

「雲南ムスリムの歌う日本と中国の歌」

これらの内容については、今後改めて報告する予定ですが、参考までに『コミュニケーション科学』14号所収の「イスラーム地域としての中国とタイ（1）」を御覧下さい。また、今号に掲載された「中国雲南省新平県の彝回について」も合わせてご覧下さい。ただし、この論文については内容の性格上、具体的な地名や個人名を伏せてありますので、直接関係する映像・画像はありません。ただし、雲南の回族については、2004年から現在まで、数十本のビデオを撮影していますので、今後順次続編を掲載して行く予定です。今回は、タイのチェンマイが主な舞台となっておりますが、「馬雲従氏の語る小児錦」は雲南省巍山県で撮影したものです。巍山県は、タイのチェンマイにアッタカワー学校、中国語名で敬真学校を設立した忽然茂氏（故人、タイ語名ヨーン・フーアナン氏、アラビア語名アブドゥル・ラーマン氏）の故郷で、アッタカワー学校という同じ名前のイスラーム学校が、チェンマイだけでなく、巍山県、そして雲南のイスラームの中心地の一つである沙甸にも設立されています。というわけで、「三つのアッタカワー学校」という題名のメニューがあるわけです。「雲南の小児錦」に登場する馬雲従氏は著名なイスラーム学者で、「大ウスターズ」と言えばこの方を指すほどですが、この方は忽然茂氏の同窓生にあたり、巍山県の敬真学校（正式名は穆光学校、すなわちマドラサ・ヌール・ムハンマド）の事実上の校長を忽然茂氏が務めた時の最上級クラスの教師を務めていました。

巍山県をはじめ、雲南のムスリムとチェンマイのムスリムの間には、密接な交流があります。また、タイやミャンマーの雲南華僑のムスリムには、雲南のイスラームの伝統が色濃く残っています。今回の「チェンマイの犠牲祭」にも、そのことがよく現れています。今後のDVDコンテンツの中で、こうした交流や伝統について取り上げて行く予定です。

(2) 「観光用テモクーの再生（2006年のテモクー）」（雲南のチーヌオ族の新年）

内容は中国雲南省のチーヌオ族の新年に関するもので、以下の部分から構成されています。

「開始（スタート）」

「出迎えの隊列」

「開会宣言と来賓挨拶」

「太鼓とお茶の儀礼」

「鍛冶屋を祭る儀礼」

「春耕前の儀礼」

フィールドワークの記録から

- 「チーヌオ大鼓舞」(その一)
- 「チーヌオ大鼓舞」(その二)
- 「創世の女神を祭る踊り」(郷老協会)
- 「創世の女神の踊り」(チーヌオ民俗山寨)
- 「大鼓舞」
- 「私の中華を愛する」
- 「トーチャーハルレー」
- 「チークー (狩りの歌)」
- 「テモニュー」(フィナーレ)
- 「祭りの後で」

チーヌオ族は、中国雲南省シーサンパンナ・タイ族自治州景洪市の山中にある、チーヌオ山チーヌオ民族郷に分布する少数民族で、中国の56の民族のうち、1979年に最後に公認された民族です。シーサンパンナの州都である、景洪(チンホン)から比較的近い位置に分布していたなどの理由で、中央政府は特別にチーヌオ族の経済発展(主に砂仁という、漢方薬の材料となる薬草栽培で知られる)や教育を重視して来ました。現在ではゴム栽培の拡大と、近年高騰を続けるプーアル茶の生産が盛んになっており、テモクーにも「古茶節」という意味が加わりました。テモクーとは、チーヌオ語でお正月のことであり、元来は独自の暦にもとづいていましたが、現在では西暦にもとづいて、毎年2月6日～8日の間に行われています。

これらのコンテンツは、『コミュニケーション科学』第22号(2005年3月発行)掲載の「三つのテモクー」の続編として作成しました。観光用と郷政府主催の式典、村落レベルで復活された三つのテモクーを比較することを通じて、テモクー復活の意味を考えました。チーヌオ族に関しては、本学の『東京経大会誌』(第199号、第205号、第213号、第231号、第241号、第251号)及び『人文自然科学論集』(第108号)に掲載されて来た、東京経済大学雲南研究会(現在は東京経済大学雲南研究所)による調査報告を御覧下さい。テモクーに関しては、2006年10月発行の第251号に詳しい調査報告が掲載されていますが、このDVD-ROMに掲載されているテモクーについての解説は、今後の調査報告の中でふれて行く予定です。すでに2007年のテモクーの撮影を終えており、テモクーにも大きな変化が起っています。2007年のテモクーについては、来年度のDVD-ROMに掲載する予定です。2006年と2007年のテモクーを合わせて調査報告を書く予定です。意外な変化がありますので、御期待下さい。

2006年のテモクーは、伝統的な民族儀礼と観光向けの歌舞の両方の要素が凝縮されており、非常に内容の濃いものになっておりますので、どうぞゆっくり御鑑賞下さい。政府の指導者

の紹介も含まれていますが、かつてのシーズンパンナのタイ族の王族や貴族、またチーヌオ族の著名なリーダーなどについて知ることができます。

4. 作成環境

ビデオ撮影はSD規格（通常のDV形式）とHDV1080iの両方で収録しています。ビデオ編集には、主にアップル社のPower Mac G5 2.5GHz Dualを使用し、ソフトウェアはアップル社のiMovie HD、オーサリングとエンコードには同社のDVD Studio Pro4およびCompressorを使用しました。画像処理には、Adobe社のPhotoshop CS2等を使用しました。

当初の予定では、DVDの機能をフルに生かして、複数の言語の字幕や音声を選択できる多言語対応のコンテンツを予定していました。残念ながらまたしてもこれは今後の課題となり、今回もタイ語や中国語で撮影したビデオに日本語の字幕をつけるにとどめました。

5. 問題点

最後に、いくつか気になった問題点を列挙しておく。

(1) HDVにおける字幕と画質低下

今回のDVDコンテンツを作成してみて、まず気が付いたことは、HDV（1080i）で撮影した素材をiMovie HDで編集した場合に、字幕を作成すると、字幕が表示される部分だけ、画面全体の画質がかなり低下することである。また、これはHDVの場合に生じる現象で、SDの場合には発生しない。

考えられる対策としては、字幕をDVD Studio Proで作成する、iMovie HD以外のソフトで作成することなどが考えられる。

いずれにせよ、今回の「観光用テモクーの再生（2006年のテモクー）」については、字幕のある場所とそうでない場所で、画質がかなり変化することがわかった。また、以上の原因以外に、撮影時に逆光補正の操作が不十分で、これも画質低下の原因となっている。

HDV規格の素材を使用したのは、今回が初めてである。来年度以降に、こうした問題に対処して行きたい。

(2) メニュー画面のテキストの見やすさについて

次に気になったのが、メニュー画面に使用したテキストの見やすさの問題である。そもそもデジタルでのコンテンツ制作であることからすれば仕方がないことではあるが、DVDデッキとテレビの両方がデジタル放送対応で、なおかつデジタルで両者を接続した場合には、きれいに表示され、問題とはならない。しかしながら、DVDデッキとテレビを赤、白、黄

フィールドワークの記録から

色の三色のケーブルで接続した場合には、メニュー画面のテキストの表示がちらついて見えるという問題がある。考えられる対策としては、HTMLで制作する場合のように、テキストを書き込んだ画像ファイルを入れ替えて表示することなどにより、テキストのちらつきを緩和することである。今回の場合も、DVD Studio Pro の操作としては問題ないが、より熟練していくことが求められる。

(3) パソコンと DVD デッキでの操作、表示の違い

今回の場合、「三つのアツカワー学校——雲南とチェンマイ——」の前半のビデオクリップから後半のスライドショーへ移動する際に、パソコンでは設定通りにチャプターのスキップで移動できるが、DVD デッキの場合には別のコンテンツにジャンプしてしまう現象が発生する場合がある。正しく設定されているのであるから、有効な対策は考えられないが、前半のビデオから後半のスライドショーへ移る場面では、スキップ機能を使用せず、自然に切り替わるのを待っていただくしかない。

この他、DVD Studio Pro 上で制作したスライドショーが、Windows XP 搭載のパソコンで正しく表示されないという問題が生じたため、急遽 iMovie HD 上で作成し直したという経緯がある。DVD Studio Pro については、その特徴について、さらに熟知しておく必要がある。

以上、様々な課題が残ったが、来年度以降の DVD コンテンツでは、こうした問題を解決し、特に HDV の素材を美しく表示できるようにしたい。今回については、SD 規格のビデオ素材が予想以上にきれいにエンコードすることができ、古い素材でも生かしていく展望が開けた。

付記：この DVD-ROM のコンテンツの一部は、2005 年度本学個人研究助成-費 (C05-05) による研究成果の一部である。